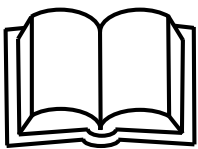
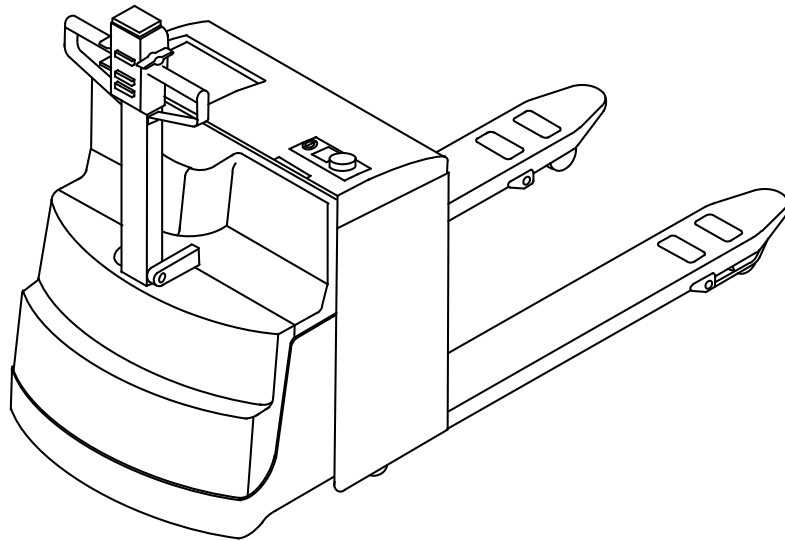


ローリフト
JHPシリーズ

取扱説明書



必ず、この取扱説明書を読んでからお使いください。
また、すぐ読める場所に保管してください。

コレック 株式会社

この度は、「ローリフト」をお買上げ頂き、厚く御礼申し上げます。この取扱説明書は、ローリフトの正しい取扱方法と日常の点検、整備の方法を説明しております。ローリフトをご使用になる前にお読み頂き、良く理解頂くようお願い申し上げます。また、この取扱説明書はいつでも読める場所に保管してください。

ご使用中、ご不明な点が生じた場合、万一不具合が発生した場合にもお役に立てて頂けるものと存じます。どうか、このローリフトを安全に、未永くご愛用賜りたくお願い申し上げます。

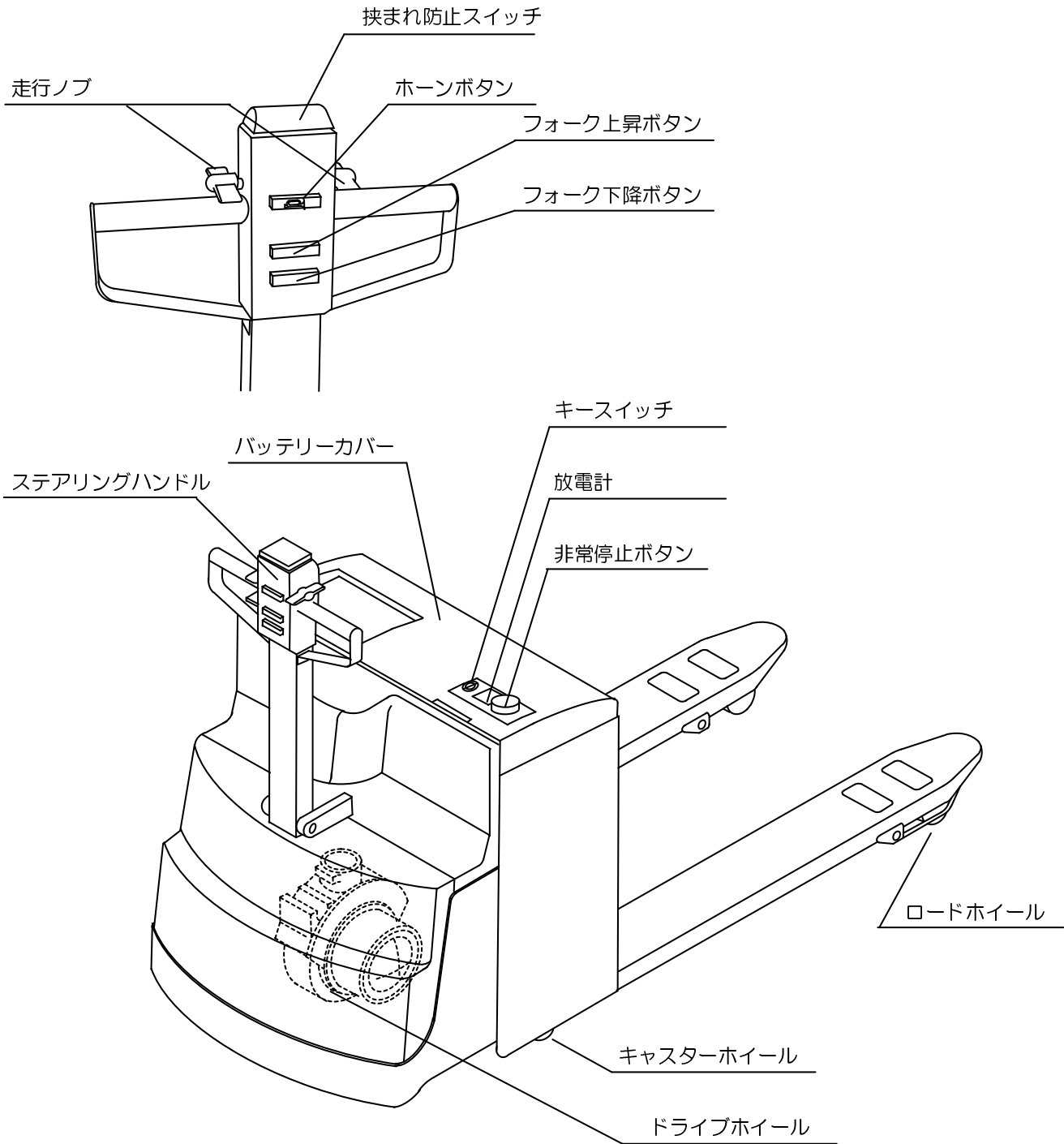
コレック株式会社

目 次

1. 名称・仕様	1
2. 安全のために	3
操作の資格	3
危険・警告・注意事項	3
取扱の危険・警告・注意事項	3
車体警告ラベルとその内容	9
3. 取り扱い	10
お受け取りになったら	10
始 動	11
フォークの操作	11
走 行	12
パレットの積載・荷卸し	15
安全装置	16
充 電	17
バッテリーのメンテナンス	24
4. 点検・整備	28
5. 故障診断	34
6. 電気回路図	36

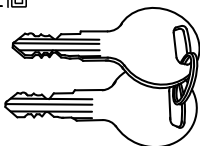
1. 名称・仕様

(1) 各部の名称



(2) 付属品

① スイッチキー 2個

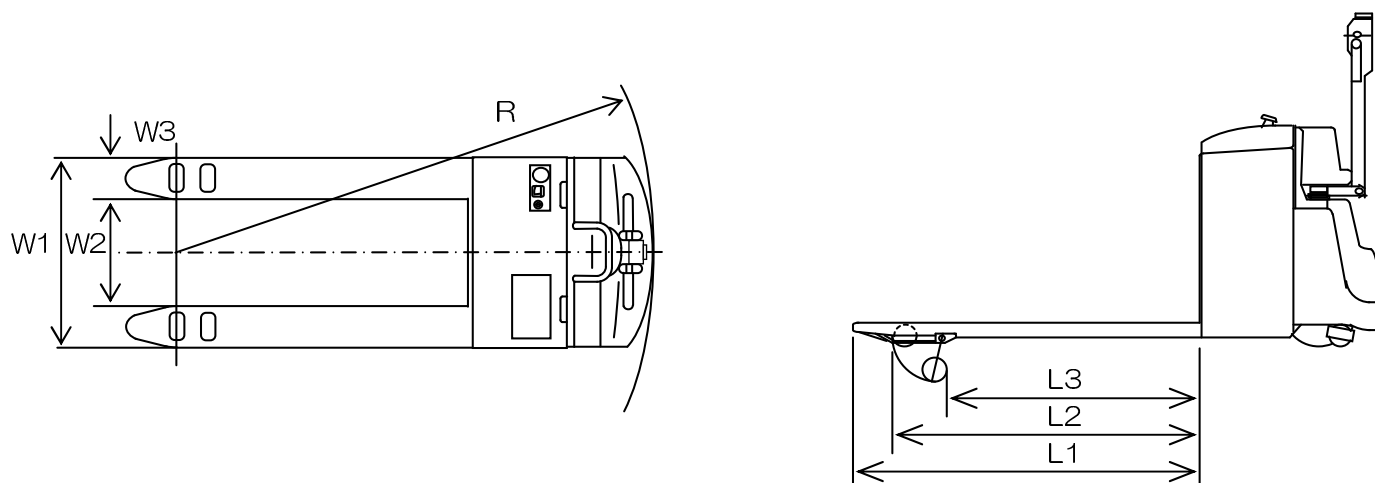


② 工具・予備品キット

- 工具・予備品収納袋
- バッテリー液比重計
- レンチ
- ヒューズセット
- ドライバー

(3) 仕様

		JHP15M	JHP15L	JHP17M	JHP17L	JHP20M	JHP20L	
最大積載質量	kg	1,500		1,700		2,000		
走行速度	負荷時	3.2		3.1		3.0		
	無負荷時	4.2		4.2		4.2		
昇降速度	負荷時	25		25		25		
	無負荷時	40		40		40		
最小旋回半径	R	1,530	1,700	1,530	1,700	1,530	1,700	
全長	mm	1,710	1,880	1,710	1,880	1,710	1,880	
全幅	mm	695		695		695		
全高	mm	1,200		1,200		1,200		
フォーク最高高さ	mm	200		200		200		
フォーク最低高さ	mm	80		80		80		
フォーク長さ	L1	1,050	1,220	1,050	1,220	1,050	1,220	
	L2	915	1,085	915	1,085	860	1,030	
	L3	755	925	755	925	700	870	
フォーク外幅	W1	580	685	580	685	580	685	
フォーク内幅	W2	280	385	280	385	220	325	
フォーク単体幅	W3	150	150	150	150	180	180	
質量	kg	330	340	350	360	390	400	
ドライブホイール	---	Φ280×80×1個		Φ280×80×1個		Φ280×80×1個		
ロードホイール	---	Φ78×100×2個		Φ78×100×2個		Φ78×70×4個		
キャスターホイール	---	Φ75×30×2個		Φ75×30×2個		Φ75×30×2個		
バッテリー電圧	V	24		24		24		
バッテリー容量	5hr	65AH		100AH		120AH		
走行モーター	kW	0.8		0.8		0.8		
走行制御	---	電磁式オフブレーキ						
油圧モーター	kW	1.5		1.5		1.5		
充電器	充電装置	---	搭載式自動充電器		定置式自動充電器		定置式自動充電器	
	入力電圧	V	100		100		100	
	トランス容量	kVA	0.5		1.2		1.2	



2. 安全のために

安全にお使いいただくために、必ず次のことを守ってください。これらのことを守らない場合、ケガや重大な事故につながる恐れがあります。


操作の資格


お求め頂いたローリフトの操作は、次の方に限られます。


- 操作する前にこのローリフトの取扱い、操作の講習や教育を受けた方。(労働安全衛生法 第59条)
- 講習や教育を受けても18歳未満の人は操作してはいけません。(労働基準法 第62条)

危険・警告・注意事項

この取扱説明書では、取扱いを誤ると人身事故につながる恐れがある事項を3段階で示しています。

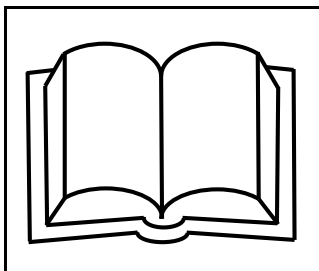
 **危険** 取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険があります。その危険は切迫しています。

 **警告** 取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が予想されます。軽傷を負ったり、物的な損害が高い頻度での発生が予想されます。

 **注意** 取扱いを誤った場合、ケガの発生が想定されます。また、可能性は低いものの重傷を負う恐れもあります。物的損害発生も予想されます。

取扱の危険・警告・注意事項

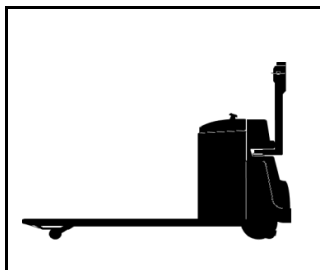
■ ご使用の前に



警告

取扱説明書を必ず読んでからお使いください。

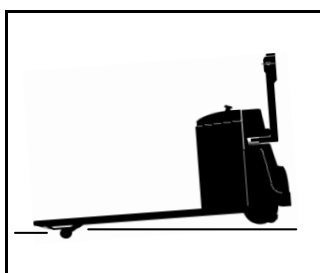
取扱説明書を読み、よく理解してから使用して下さい。読まなかったり、よく理解しない場合、誤った使用方法によってケガをしたり重大な事故を起す恐れがあります。



⚠ 注意

始業点検は必ずおこなってください。

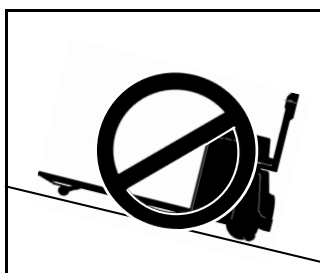
毎日、使用する前に必ずローリフトの始業点検をおこなってください。点検を怠ると故障に気がつかず使用し、故障がもとで事故を起す恐れがあります。点検の内容は28ページに記載されています。



⚠ 警告

凹凸のないしっかりした床の上で使用してください。

凹凸のある床や車輪がめり込むような柔らかな床で使用すると荷崩れやローリフトが転倒する恐れがあります。また、このような床の上でフォークの上下操作をおこなってははいけません。荷崩れやローリフトが転倒する恐れがあります。荷崩れやローリフトが転倒すると積荷が傷むだけでなく、器物を損壊する恐れがあります。また、人に当たるとケガや重大な事故を起す恐れがあります。



⚠ 警告

傾斜地での駐車、荷の積み降ろしは禁止です。

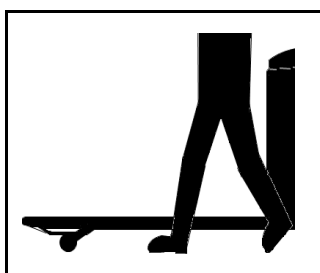
ステアリングハンドルをブレーキ位置に立てても傾斜地では駐車してはいけません。また、傾斜地では荷物の積み降ろしもおこなってははいけません。ブレーキがかかっている傾斜地ではローリフトが動くことがあります。動きだしたローリフトが器物に当たると器物を損壊する恐れがあります。人に当たるとケガや重大な事故を起す恐れがあります。



⚠ 警告

フォークに乗ってはいけません。

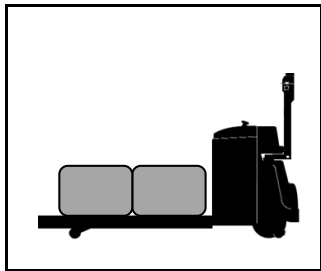
フォークやパレット、積載した荷物に乗ったり、足をかけたりすると、転倒してケガや重大な事故を起す恐れがあります。まして、フォークに人を乗せて走行してはいけません。ローリフトから転落したり、挟まれ事故を起す恐れがあります。転落や挟まれるとケガや重大な事故につながる恐れがあります。



⚠ 警告

車体の下に足や手を入れてはいけません。

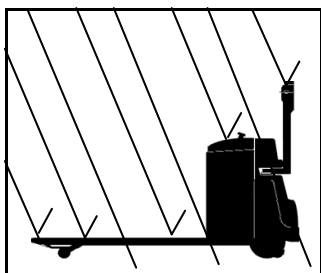
ローリフトの下にある物を拾う時は、ローリフトを移動させておこなってください。車体の下に足や手を入れるとフォークが下降したり、車体が動くと足や手を挟まれます。足や手を挟まれるとケガや重大な事故につながる恐れがあります。



注意

荷物を積載したまま放置してはいけません。

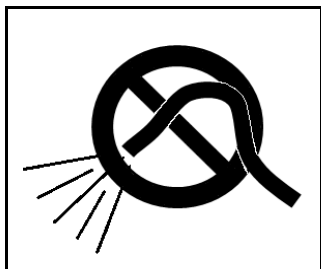
荷物を積載したまま放置すると車輪に不要な負荷がかかり、車輪が変形したり故障を起す原因となります。また、フォークは少しずつ降下しますのでフォークの高さが変わることがあります。



警告

雨の中で使用してはいけません。

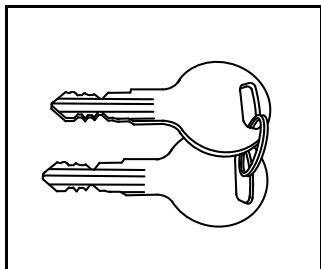
雨の中でローリフトを使用すると水が車体に侵入しショートや故障の原因となります。また、漏電によって感電する恐れもあります。



警告

洗車禁止。

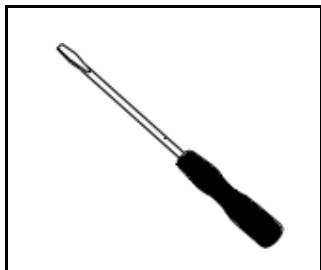
水で車体を洗うと、水が車体に侵入しショートや故障の原因となります。また、漏電によって感電する恐れもあります。車体を清掃する時は、ぞうきんなどで拭いてください。



警告

ローリフトから離れる時は

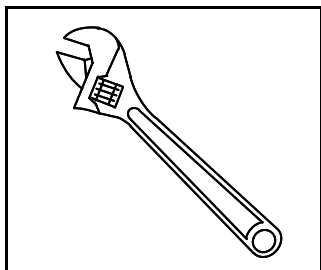
ローリフトから離れる時は、フォークを最下位へ降ろし、ステアリングハンドルをブレーキ位置に立て、キーをOFFにしてください。また、キーは抜いて保管してください。フォークが上昇位置にあたり、ステアリングハンドルが走行位置にあると不用意にローリフトが動き、ケガや重大な事故を起す恐れがあります。また、キーを付けたままにしておくと、操作に慣れない方が操作し、事故を起す恐れがあります。



警告

改造してはいけません。

改造によって、ローリフトの性能や安全性が損なわれる恐れがあります。改造が必要な時は、メーカーまでご相談ください。

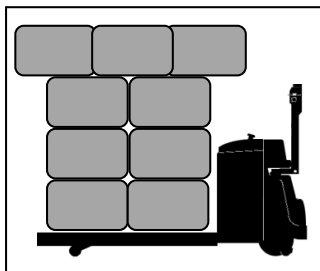


警告

定期的に自主検査をおこなってください。

月1回の月次点検、年1回の年次点検を必ずおこなってください。点検を怠ると故障に気がつかず、故障がもとで事故を起す恐れがあります。また、点検の結果は3年間保管するように努めてください。

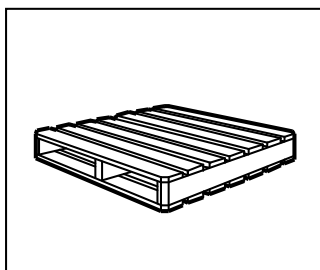
■ 積み込みに際して



⚠ 警告

最大積載質量より積んではいけません。

最大積載質量を超えて荷物を積載すると荷崩れを起し積荷が落下する恐れがあります。また、ローリフトが故障する原因にもなります。積荷が落下すると器物を壊したり、人に当たると重大な事故を起す恐れがあります。

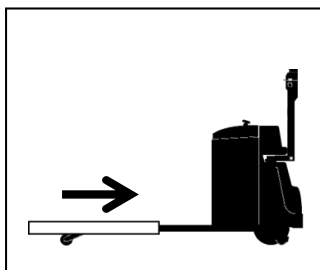


⚠ 警告

フォークに合ったパレットを使用してください。

パレットは、フォークの長さ、幅、高さに適合したパレットを使用してください。パレットがフォークに適合していないと、搬送中パレットがカダ付き積荷が落下する恐れがあります。積荷が落下すると器物を壊したり、人に当たるとケガや重大な事故を起す恐れがあります。

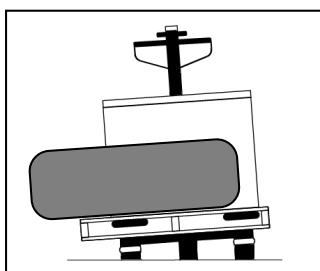
- 推奨するパレットの種類：単面パレット、片面パレット。
- パレット長さ：フォーク長さの125%未満であること。
- パレット幅：フォーク幅の倍未満であること。
- フォークポケット高さ：フォーク最低位より10mm以上余裕があること。



⚠ 注意

パレットは、フォークの根元まで差し込んでください。

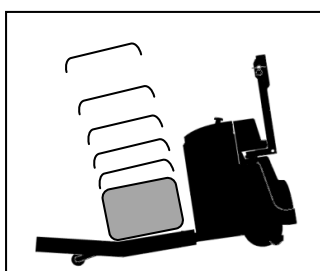
パレットをフォークの根元まで差し込まないとパレットがガタつき荷崩れを起す恐れがあります。また、極端な場合は操作に支障を来す恐れもあります。



⚠ 警告

荷物が片荷にならないよう積載してください。

片寄った荷物の積載は、荷崩れの恐れがあります。極端な場合、ローリフトの操作ができなくなったり、転倒する恐れがあります。操作ができなくなったり、転倒すると器物を壊したり重大な事故を起す恐れがあります。



⚠ 注意

衝撃をかけないでください。

荷物を積載する時、フォークに衝撃をかけるとフォークが変形したり、ローリフトが故障する原因となります。また、荷物の荷重がフォークに均等にかかっていない場合も、フォークの変形やローリフトが故障する恐れがあります。

■ 走行・搬送に際して



⚠ 警告

急発進、急停止しないでください。

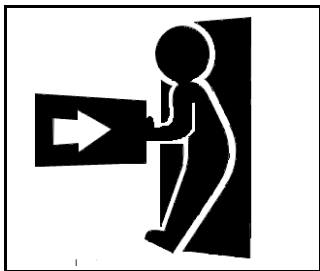
走行ノブを急激に操作するとローリフトは急発進します。急発進や急停止(減速せずハンドルを停止位置へ動かすとローリフトは急停止します。)は、荷崩れの原因となるばかりか、事故に結びつく恐れがあります。



⚠ 警告

急旋回しないでください。

急旋回は、荷崩れの原因となるばかりか、車体の安定が悪くなりローリフトが転倒する恐れがあります。また、事故に結びつく恐れがあります。



⚠ 警告

ハンドルに挟まれないように注意してください。

壁や棚とハンドルとの間に挟まれないように注意して操作してください。操作する人が壁や棚などに挟まれると重大な事故につながる恐れがあります。

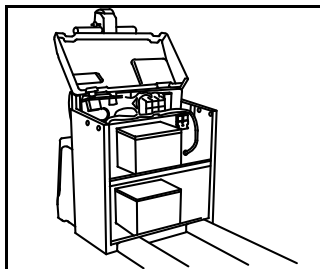


⚠ 警告

走行ノブを回した状態で、ハンドルを走行位置へ動かしてはいけません。

走行ノブを走行方向へ回した状態で、ハンドルを走行位置へ動かすとローリフトは急発進します。急発進すると荷崩れの恐れがあるばかりか、操作が困難となり事故を起す恐れがあります。

■ 充電・バッテリーの取扱い時に



⚠ 警告

充電中はカバーを開けてください。

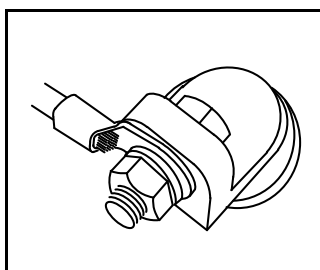
バッテリーは、充電中 水素ガスが発生します。カバーを開けて水素ガスを逃がしてください。また、充電場所の換気も十分におこなってください。水素ガスがたまると爆発し、火災になる恐れがあります。



⚠ 警告

充電中は火気厳禁です。

バッテリーは、充電中 水素ガスが発生します。充電中はローリフトの周りで火気を使用しないでください。また、火花が散る作業もおこなってはけません。水素ガスに引火し、爆発、火災になる恐れがあります。



⚠ 注意

バッテリー端子の接続に注意してください。

ケーブルを取り付ける時、(+)と(-)を逆に接続しないように注意してください。また、接続は(-)側を先に取り付けてください。接続を間違えると電気部品の破損、焼損の原因となります。



⚠ 危険

バッテリー液にさわったり、付着した時は。

バッテリー液(電解液)は希硫酸を含んでいます。目、皮膚、衣類などに付着した時は、ただちに大量の水で洗い流してください。特に目に入った時は失明の恐れがありますので、すぐに大量の水で洗眼し、医師の診断を受けてください。間違ってもなめたり、飲んだりしないでください。死に至る恐れがあります。

2. 安全のために

車体警告ラベルとその内容

ローリフトには、次の警告ラベルが貼られています。

警告ラベル	内 容
<p>▲ 警告</p>  <p>火気禁止</p>	充電中、水素ガスが発生します。充電中にバッテリー近辺で火気を使用したり、火花が散る作業をおこなうと水素ガスに引火し、ガスが爆発、火災になる恐れがあります。
<p>▲ 警告</p>  <p>火気禁止</p>	触れると火傷をする恐れがあります。
	吊りフック位置

その他「運転時の注意事項」「バッテリー取扱注意」などのラベルが貼られています。

3. 取り扱い

お受け取りになったら

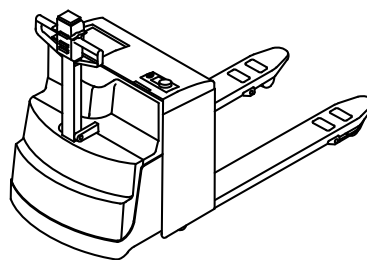
検査に合格したローリフトを出荷しておりますが、お受け取りになりましたら次の点検、作業をお願い致します。

■ 輸送中の損傷

輸送中にローリフトが損傷していないか確認してください。

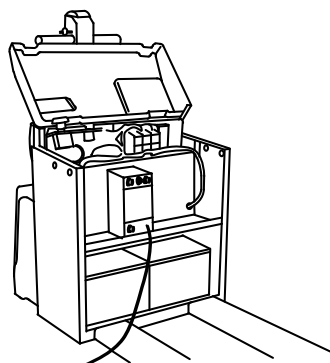
合わせて、次の箇所にゆるみ、破損、異常がないことを確認してください。

- ボルト・ナットのゆるみ。
- フォークの昇降下降。
- 走行とブレーキ。

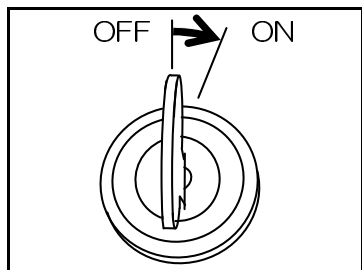


■ 充電してください。

充電の方法は、17ページに記載してあります。



始 動



キースイッチを「ON」にします。

キースイッチを右（時計方向）に回します。スイッチが「ON」になります。

警告

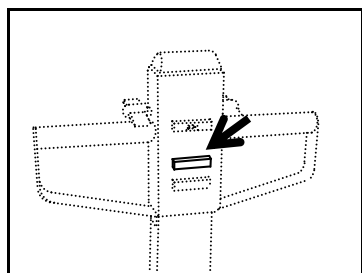
■ 始業点検

ローリフトを操作する前に、必ず始業点検をおこなってください。始業点検をおこなわずに操作すると不具合に気づかず、事故を起し器物をこわしたり、ケガや重大な事故につながる恐れがあります。

■ 走行状態でのキーON禁止

走行ノブを倒し、ハンドルが走行位置にある状態でキーをONにするとローリフトは急発進します。急発進すると荷崩れの恐れがあるばかりか、操作が困難となり事故を起す恐れもあります。

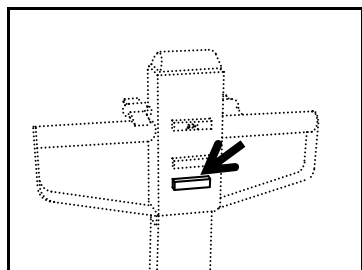
フォークの操作



フォークの上昇

ステアリングハンドルに装備されているフォーク上昇ボタンを押すとフォークは上昇します。

ボタンから手を離すとフォークは停止します。



フォークの下降

ステアリングハンドルに装備されているフォーク下降ボタンを押すとフォークは下降します。

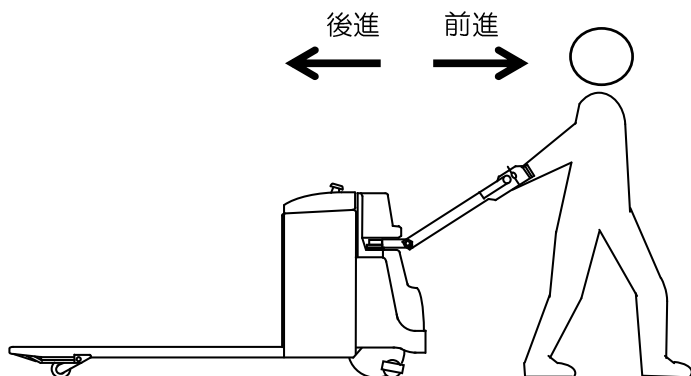
ボタンから手を離すとフォークは停止します。

警告

■ 走行中のフォーク操作の禁止

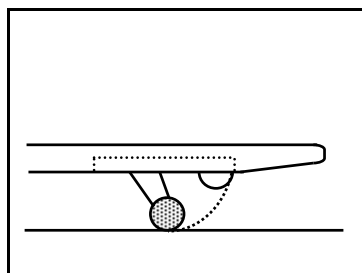
走行中にフォークを操作してはいけません。走行中にフォークを操作すると荷崩れのを起す恐れがあります。また、周囲への注意が散漫となり器物や人と衝突する恐れもあります。

走行



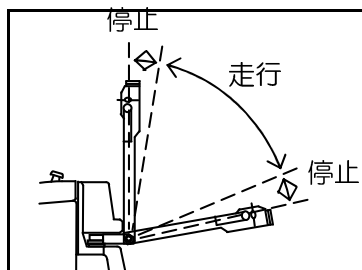
走行姿勢

走行は、車体を押さず、引いて走行してください。フォークをパレットなどに差し込む作業等フォーク側に後進する時は、ゆっくりと操作できる速度で進んでください。



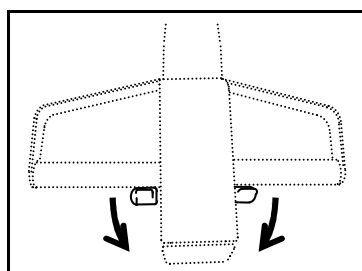
フォークを上昇させます。

走行する前にフォークを上昇させます。



前進（操作する方の方向）

(1) ハンドルを走行位置に倒します。
ハンドルの位置が低い場合、または高い場合ともブレーキがかかりローリフトは走行しません。



(2) ステアリングハンドルに装着されている走行ノブをゆっくり手前へに倒すとローリフトが前進します。
走行ノブを大きく倒すと増速します。

警告

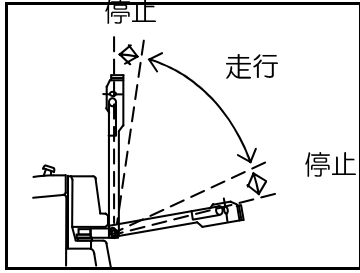
■ 急発進の禁止

走行ノブを急激に操作するとローリフトは急発進します。急発進すると荷崩れの原因となるばかりか、操作が困難となり、事故を起す恐れがあります。

■ ハンドル操作前のノブ操作禁止

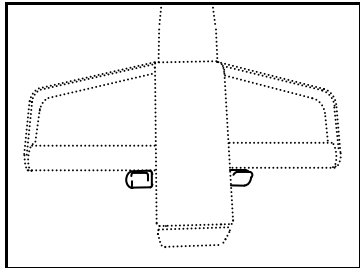
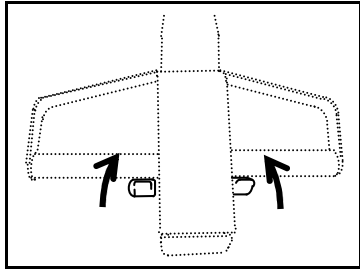
操作ノブを走行側に倒してから、ハンドルを走行位置へもって行ってはいけません。ローリフトは急発進します。急発進すると荷崩れの原因となるばかりか、操作が困難となり事故を起す恐れがあります。

3. 取り扱い



後進（フォークの方向）

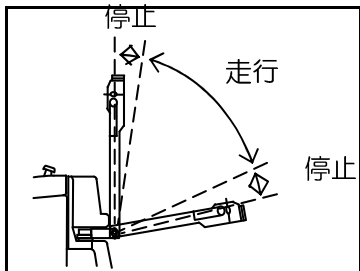
- (1) ハンドルを走行位置に倒します。
ハンドルの位置が低い場合、または高い場合ともブレーキがかかりローリフトは走行しません。
- (2) ステアリングハンドルに装着されている走行ノブをゆっくり前方へ倒すとローリフトが後進します。
走行ノブを大きく倒すと増速します。



減速

走行ノブの倒す角度を浅くすると減速します。
次のような時は安全のために減速に努めてください。

- 停止する時
- 後進走行（フォーク側への走行）する時
- 狭い通路、段差を走行する時
- 直角や深い角度で旋回する時
- 作業者の脇を通過する時



停止

走行ノブから手を離し、ステアリングハンドルを垂直または最下位へ動かすとブレーキがかかります。停止は、必ず減速してからおこなってください。

警告

■ 急発進の禁止

走行ノブを急激に操作するとローリフトは急発進します。急発進すると荷崩れの原因となるばかりか、操作が困難となり、事故を起す恐れがあります。

■ 急停止の禁止

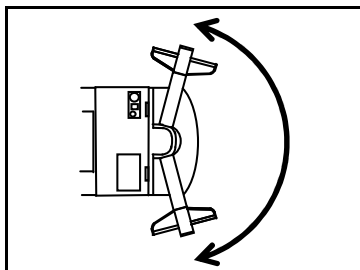
やむ得ない場合を除いて、急停止してはいけません。急停止は荷崩れの原因となるばかりか、操作が困難となり事故を起す恐れがあります。

■ ハンドル操作前のノブ操作禁止

操作ノブを走行側に倒してから、ハンドルを走行位置へもって行ってはいけません。ローリフトは急発進します。急発進すると荷崩れの原因となるばかりか、操作が困難となり事故を起す恐れがあります。

■ 走行ノブ操作時のブレーキ禁止

やむ得ない場合を除いて、走行ノブを走行側に倒したままブレーキをかけてはいけません。ローリフトは、急停止します。このような状態で急停止すると荷崩れの恐れがあります。また、故障の原因となります。



旋 回

ハンドルを旋回する側に振るとローリフトは旋回します。
振る角度が大きい程、旋回半径は小さくなります。

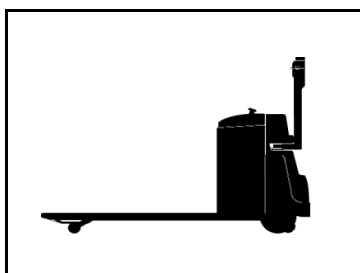
警告

■ 急旋回の禁止

急旋回してはいけません。急旋回は車体の安定が悪くなり、荷崩れやローリフトが転倒をする恐れがあります。

■ 挟まれ注意

旋回時、壁や棚とハンドルの間に挟まれないように注意してください。操作する人が壁や棚などに挟まると重大な事故につながる恐れがあります。



駐 車

駐車は、次の手順でおこなってください。

- (1) フォークを最下位置まで降ろします。
- (2) ステアリングハンドルを垂直へ戻します。
- (3) キースイッチをOFFにし、キーを抜きます。

警告

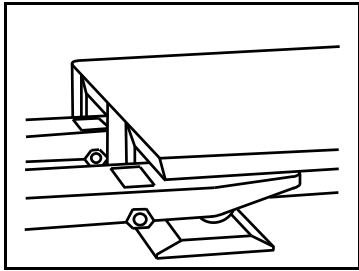
■ 傾斜地での駐車禁止

坂道など傾斜のある床には駐車してはいけません。ブレーキがかかっても動き出す恐れがあります。

■ キーの保管

ローリフトを離れる時は、必ずキーを抜いてください。キーを差し込んだままにすると操作に不慣れな方が操作し、事故を起す恐れがあります。

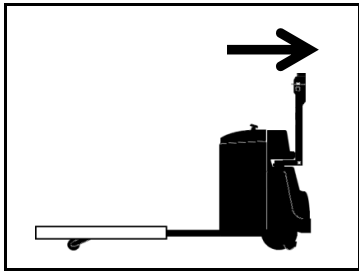
パレットの積載・荷卸し



パレットの積載

パレットの積載は次の手順でおこないます。

- (1) フォークを最低位へ下降させます。
- (2) フォークポケットへローリフトをゆっくり侵入させます。
- (3) フォークを根元までしっかり差し込みます。
- (4) フォークを上昇させます。



パレットの荷卸し

パレットの荷卸しは次の手順でおこないます。

- (1) フォークを最低位へ下降させます。
- (2) ローリフトをゆっくり前進させフォークをパレットから抜きます。

警告

■ 最大積載質量以上の積載禁止

最大積載質量を超えて荷物を積載すると荷崩れを起し積荷が落下する恐れがあります。積荷が落下すると事故を起す恐れがあります。また、故障の原因となります。

■ フォークに適したパレットを使用してください。

パレットは、フォークの長さ、幅、高さに適したパレットを使用してください。パレットがフォークに適合していないと、搬送中パレットがカダ付き積荷が落下する恐れがあります。

● 推奨するパレットの種類：単面パレット、片面パレット。

パレット長さ：フォーク長さの125%未満であること。

パレット幅：フォーク幅の倍未満であること。

フォークポケット高さ：フォーク最低位より10mm以上余裕があること。

■ 荷物が片荷にならないように積載してください。

片寄った荷物の積載は、荷崩れの恐れがあります。極端な場合、ローリフトの操作ができなくなったり、転倒する恐れがあります。操作ができなくなったり、転倒すると器物を損壊したり重大な事故を起す恐れがあります。

また、荷重がフォークに均等にかかるとフォークが変形する恐れがあります。

注意

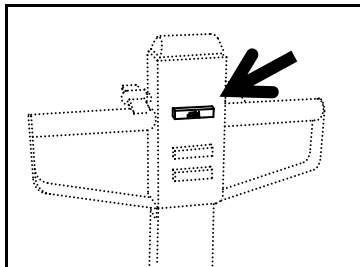
■ パレットはフォークの根元まで差し込んでください。

パレットをフォークの根元まで差し込まないとパレットがガタつき荷崩れの恐れがあります。また、極端な場合は操作に支障を起す恐れもあります。

■ 衝撃をかけないでください。

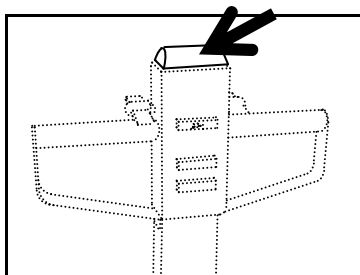
積載する時に、フォークに衝撃をかけるとフォークが変形したり、ローリフトの故障の原因となります。

安全装置



警 笛

ホーンボタンを押すと警笛がなります。



挟まれ防止スイッチ

ハンドルが走行位置にある時、挟まれ防止スイッチを押すとローリフトは後進(フォークのある側)します。

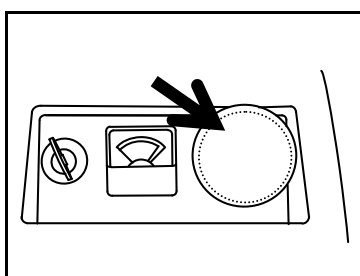
後進している時、挟まれ防止スイッチを押しても前進しません。

挟まれ防止スイッチは、壁や棚に挟まれそうな時だけ操作してください。

⚠ 警 告

■ 挟まれ防止スイッチの使用制限

危険を感じた時のみ使用してください。挟まれ防止スイッチを使用するとローリフトは急に反対方向へ進行しますので、周囲の人に接触し事故につながる恐れがあります。



非常停止ボタン

ボタンを押すと電源が遮断されます。ボタンを引くと復帰します。

緊急時のみ、使用してください。

⚠ 注 意

■ 緊急時以外の使用制限

停止操作に非常停止ボタンを使用してはいけません。非常停止ボタンを押すとローリフトは急停止し、荷崩れの恐れがあります。

■ 充電中の使用禁止

充電中に使用してはいけません。電源回路が遮断され充電ができなくなります。

3. 取り扱い

充電

充電に必要な電源は次のとおりです。 確認の上、充電をおこなってください。

JHP15	電 圧 100V	消費電力 0.5kVA
JHP17 JHP20	電 圧 100V	消費電力 1.2kVA

充電時機

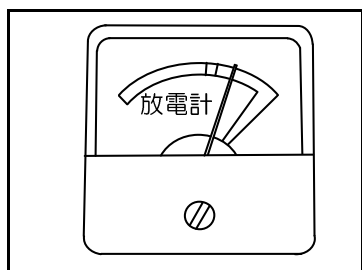
充電は、次の時機(タイミング)におこなってください。

■ 毎日、フルに稼働するローリフト

業務終了後、毎日 普通充電をおこなってください。毎日の「普通充電」だけで不足する場合は、昼休みなどの休憩時間に「補充充電」をおこなってください。

■ 毎日の稼働時間が少ないローリフト

バッテリーをフルに充電(満充電)した状態からバッテリー放電計が黄色を指すまでの日数を数え、その日数毎に「普通充電」をおこなってください。



バッテリー残量を確認してください。

車体に装備されているバッテリー放電計で充電残量を確認してください。充電残量は次の手順でおこないます。

- (1) キースイッチをONにします。
- (2) フォークを上昇させながら、バッテリー放電計の目盛を読みます。

充電が必要な目安

- メーターの針が黄色を指したら充電してください。
- メーターの針が赤色を指したらただちに充電してください。

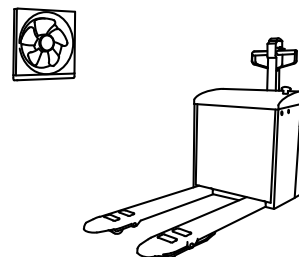
バッテリーを長持ちさせるコツ

- 空になるまで使用しない。(過放電しない。)
ローリフトが動かなくなるまでバッテリーを酷使すると寿命が短くなります。
- 必要以上に充電しない。(過充電しない。)
十分充電されているバッテリーに更に充電すると寿命が短くなります。
1日の稼働時間が短いローリフトに毎日普通充電すると寿命が短くなるのが代表的な例です。
- バッテリー液が減った状態で使用しない。
バッテリー液が規定量より減ると電極が痛みます。バッテリーの液量は日常チェックして、精製水を補充する(補水)する必要があります。

充電場所

充電中、バッテリーから水素ガスが発生します。充電は、水素ガスが溜まらない風通しの良い、雨のかからない場所でおこなってください。

また、屋内で行う時は換気扇を設置するなど換気に十分に注意してください。

**警告**

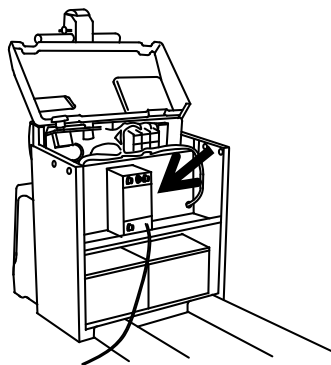
■ 充電場所

充電は、風通しの良い、雨のあたらない場所でおこなってください。換気の悪い場所では、必ず換気をおこなってください。バッテリーから発生した水素ガスが溜まると爆発し火災になる恐れがあります。

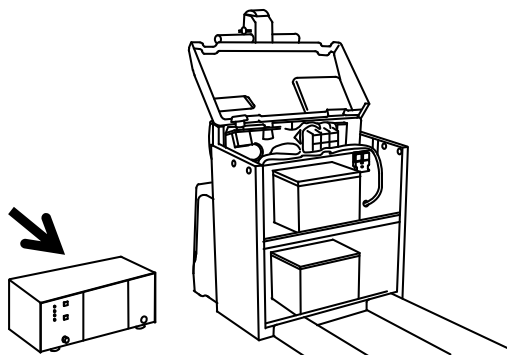
充電器

充電器は、機種によって異なります。

車体に搭載されている機種 JHP15

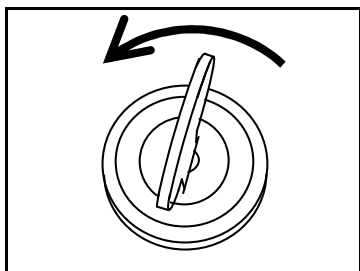


車体とは別に用意されている機種 JHP17 JHP20



3. 取り扱い

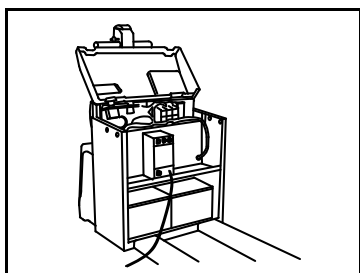
■ JHP15（搭載式充電器）の充電手順



(1) キースイッチをOFFにします。

⚠ 注意

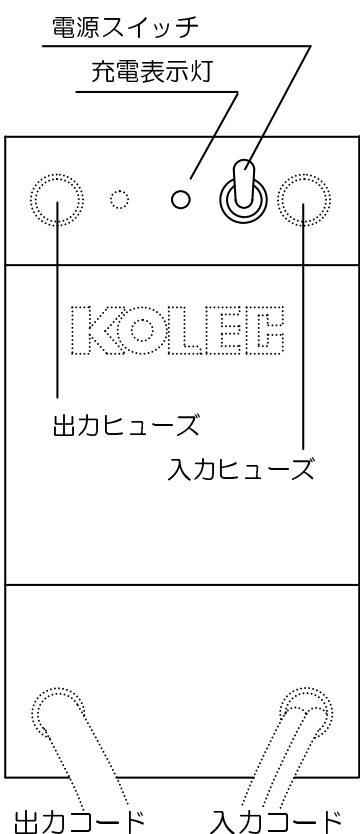
- キースイッチをONのまま充電すると
キースイッチを「ON」にしたまま充電すると、充電時間が長くなったり、充電完了後バッテリーが放電する恐れがあります。



(2) バッテリーカバーを開きます。

⚠ 警告

- バッテリーカバーの開放
バッテリーは充電中 水素ガスを発生します。バッテリーカバーを開けないで充電すると水素ガスが溜り、爆発や火災の恐れがあります。



(3) 電源プラグを引出し、コンセントに接続します。

本体から電源プラグを引出し、プラグをコンセントに接続します。

(4) 充電器の電源スイッチを「ON」にします。

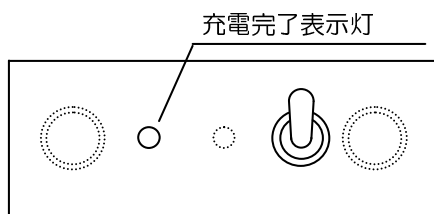
電源スイッチを「ON」にすると「充電表示灯」が点灯します。

充電の目安時間は、5～12時間です。

充電時間は、バッテリーの残量により異なります。70%放電の場合
目安時間は約8時間です。

(5) 充電の完了

充電が完了すると「充電完了表示灯」が点灯します。
充電器の電源スイッチを「OFF」にしてください。



(6) かたづけ

■ 電源コードの片づけ

電源コードのプラグをコンセントから抜き、電源コードを本体へ収納してください。

■ バッテリーカバーを閉じる

バッテリーカバーを閉じてください。

(7) 均等充電

バッテリーを一定期間使用するとセル(バッテリー内の区画)のバッテリー液にバラツキが生じます。セル内のバッテリー液を均等とするために2週間程度に1回、充電完了後に再充電をおこなってください。

(2週間に1回の頻度は、毎日 普通充電をおこなう場合)

(8) 補充電

1日1回の普通充電で、充電不足になる場合は、昼休みなどの休憩時間に普通充電をおこなってください。

通常外の処置

■ 充電を中止する場合。

電源スイッチを「OFF」にしてください。充電が中止されます。

■ 充電表示灯が表示しない場合。

バッテリーが著しく損傷している恐れがあります。サービス会社へ連絡してください。

■ 充電完了表示灯が表示しない場合。

バッテリーが著しく損傷している恐れがあります。サービス会社へ連絡してください。

警告

■ 充電中 火気厳禁

バッテリーは充電中、水素ガスが発生します。充電中、ローリフトの周りで火気を使用してはいけません。また、火花が散る作業もおこなってはいけません。水素ガスが爆発し火災になる恐れがあります。

■ 他機種、バッテリー単体の充電禁止

充電器は、専用充電器です。他の機種やバッテリー単体の充電をおこなうと、故障や火災の恐れがあります。

■ 充電中のプラグ取り外し禁止。

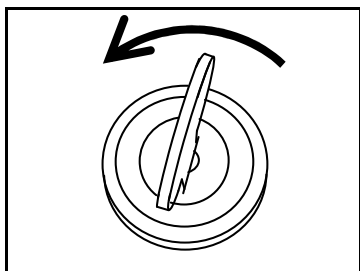
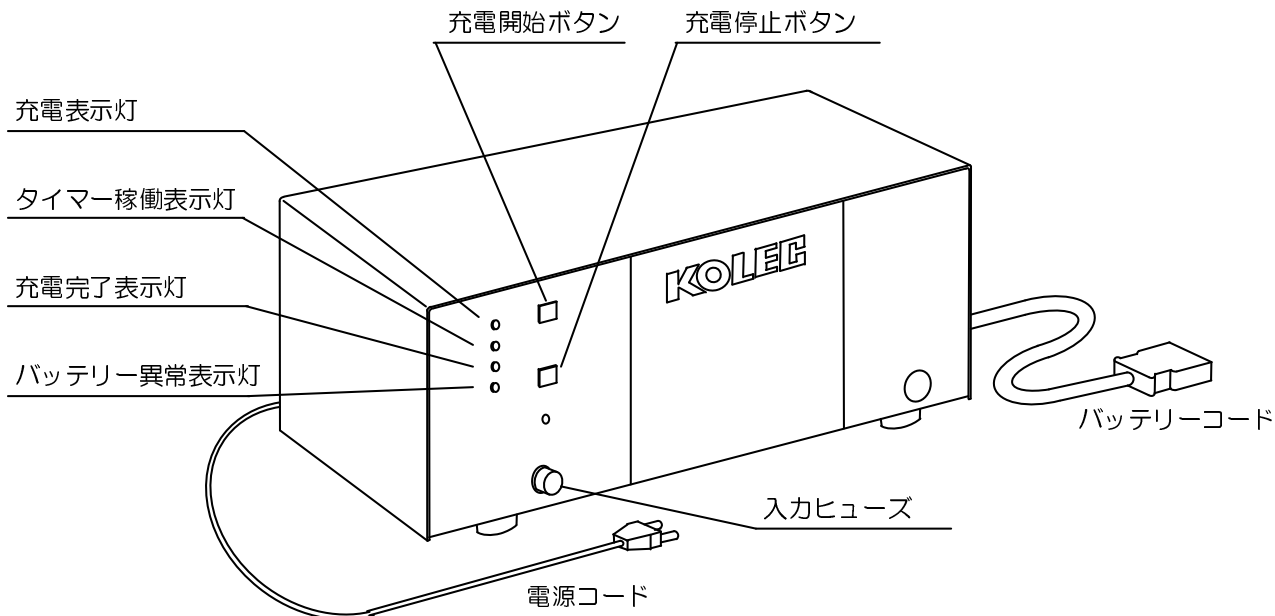
充電中にプラグを取り外すと、火花が散り水素ガスに引火する恐れがあります。水素ガスに引火すると爆発や火災の恐れがあります。

■ バッテリーの上に工具などを置かないでください。

バッテリーの上に工具などの金属類を置くとバッテリーがショートする恐れがあります。バッテリーがショートするとバッテリーが爆発したり火災を起こす原因となります。

3. 取り扱い

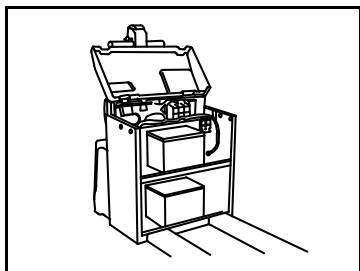
■ JHP17 / JHP20 (定置式充電器) の充電手順



(1) キースイッチをOFFにします。

⚠ 注意

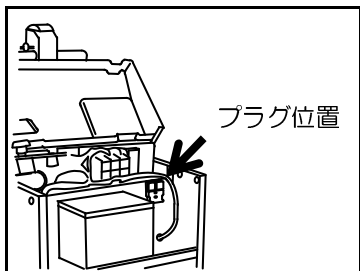
- キースイッチをONのまま充電すると
キースイッチを「ON」にしたまま充電すると、充電時間が長くなったり、充電完了後バッテリーが放電する恐れがあります。



(2) バッテリーカバーを開きます。

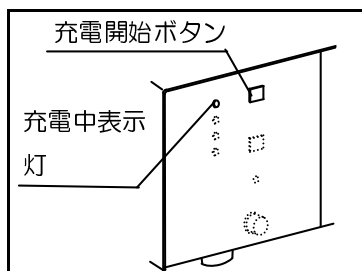
⚠ 警告

- バッテリーカバーの開放
バッテリーは充電中 水素ガスが発生します。バッテリーカバーを開けないで充電すると水素ガスが溜り、爆発や火災の恐れがあります。



(3) コードを接続します。

- バッテリーコードの接続
バッテリーコードのプラグを本体の充電プラグに差し込みます。
- 電源コードの接続
電源コードのプラグを電源プラグへ差し込みます。



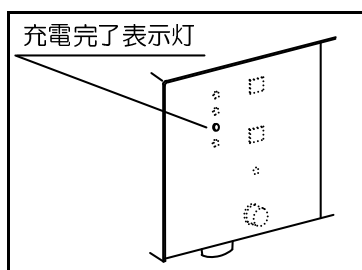
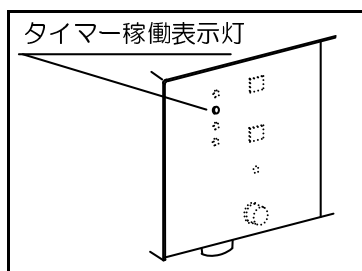
(4) 充電開始ボタンを押します。

充電器の充電開始ボタンを押します。充電表示灯が点灯し、充電が開始されます。

充電の目安時間は、5～12時間です。

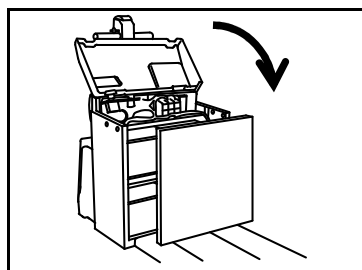
充電時間は、バッテリーの残量によって異なります。70%放電の場合目安時間は約8時間です。

約80%充電すると「タイマー稼働表示灯」が点灯します。



(5) 充電の完了

充電が完了すると、充電完了表示灯が点灯します。



(6) 充電装置のかたづけ

- 電源コードの片づけ
バッテリーコードと電源コードをコンセントから抜きます。
- バッテリーカバーを閉じる
バッテリーカバーを閉じてください。

通常外の処置

- 充電を中止する場合。
「充電停止ボタン」を押してください。充電が中止されます。
- タイマー稼働表示灯が点灯しない場合。
充電開始後、約15時間を経過しても「タイマー稼働表示灯」が点灯しない場合は、バッテリーに重大な不具合があると考えられます。充電を中止してサービス会社へ連絡してください。
- 充電表示灯が表示しない場合。
バッテリーが著しく損傷している恐れがあります。充電を中止してサービス会社へ連絡してください。

3. 取り扱い

警告

■ 充電中 火気厳禁

バッテリーは充電中、水素ガスが発生します。充電中、ローリフトの周りで火気を使用してはいけません。また、火花が散る作業もおこなってはいけません。水素ガスが爆発し火災になる恐れがあります。

■ 他機種、バッテリー単体の充電禁止

搭載されている充電器は、専用充電器です。他の機種やバッテリー単体の充電をおこなうと、故障や火災の恐れがあります。

■ 充電中のプラグ取り外し禁止。

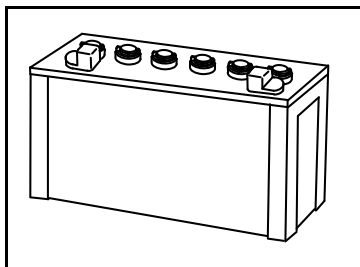
充電中にプラグを取り外すと、火花が散り水素ガスに引火する恐れがあります。水素ガスに引火すると爆発や火災の恐れがあります。

■ バッテリーの上に工具などをおかないでください。

バッテリーの上に工具などの金属類を置くとバッテリーがショートする恐れがあります。バッテリーがショートするとバッテリーが爆発したり火災を起こす原因となります。

バッテリーのメンテナンス

バッテリーは日頃、メンテナンスをおこなわないと寿命が短くなります。また、バッテリー液が不足するとバッテリーは過熱したり、焼損する恐れがあります。



毎日、バッテリー液量を点検してください。

バッテリー液が不足していないか、点検してください。バッテリー液が不足している時は、精製水(バッテリー補充液)を補充してください。

(水道の水など精製水以外の水を補充してはいけません。)
合わせて、端子にゆるみがないか点検してください。

⚠ 危険

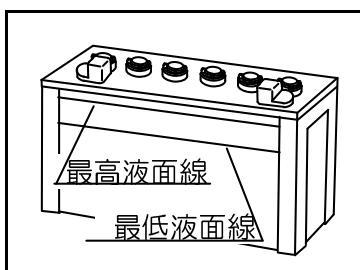
■ バッテリー液にさわったり、付着した時。

バッテリー液(電解液)は希硫酸を含んでいます。目、皮膚、衣類などに付着した時は、ただちに大量の水で洗い流してください。特に目に入った時は失明の恐れがありますので、大量の水で洗眼し、すぐに医師の診断を受けてください。間違ってもなめたり飲んだりしないでください。死に至る恐れがあります。

⚠ 警告

■ 点検する方の静電気を逃がしてから点検してください。

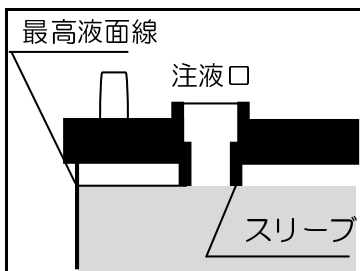
点検する方が静電気を帯びていると、ローリフトに触れた時、火花が散り、火花がバッテリーから発生する水素ガスに引火して、爆発、火災を起こす恐れがあります。ローリフトに触れる前に静電気を逃がしてから点検してください。



■ バッテリー液量の点検。

水で湿らせた布で液面線の周囲を清掃し、「最高液面線」(Upper Level)と「最低液面線」(Lower Level)の間にあることを確認してください。

液面が「最高液面線」(Upper Level)と「最低液面線」(Lower Level)間の半分以下に低下している場合は、ただちに「最高液面線」まで精製水を補充してください。補充後はしっかりキャップを締めてください。



⚠ 警告

■ バッテリー液が不足すると。

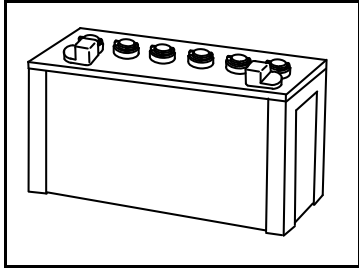
バッテリー液を「最低液面線」以下の状態で使用するとバッテリーが過熱し、焼損する恐れがあります。

■ 精製水を多く入れすぎた時は。

「最高液面線」を超えて精製水を補水した時は、スポイトなどで抜き取ってください。抜き取った後は、冷暗場所に保管し、次回の補水時に使用してください。

3. 取り扱い

■ バッテリー液比重の確認

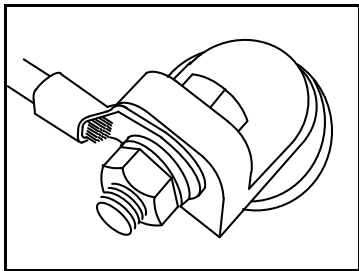


充電の状態は、バッテリー液の比重でも見るができます。また、バッテリー液比重の測定によって、バッテリーの故障を発見することもできます。定期的に測定することをお勧めします。

バッテリー液比重と充電状態は、下表の通りです。また、充電前と充電後の比重を比較するとバッテリー内部の異常を発見することができます。(バッテリー液の比重計は、工具・予備品キットに含まれています。)

バッテリー液の比重	充電状態	満充電までの時間
1.26以上	100%	充電不要
1.21以上	75%	4～6時間
1.16以上	50%	6～8時間
1.10以上	20%	9～12時間

* 表はバッテリー液が20℃の場合です。温度が低下すると低めに表示されます。



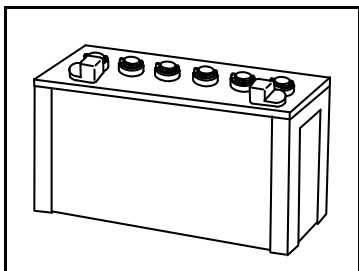
■ 端子(ターミナル)の点検。

バッテリーの端子に次の不具合がないことを確認してください。

- 端子部分のボルトのゆるみ
- 電線の付け根の腐食
- 電線のかしめ部分の損傷
- 充電プラグ装着車は、変色(黒く変色)、スパーク跡の有無

⚠ 警告

- 電線、プラグ、端子(ターミナル)の修理は専門家へ
電線、端子の修理は専門知識が必要です。必ず、修理資格を持っている方がおこなってください。
- プラグの改造禁止
プラグを改造してはいけません。発熱や発火の恐れがあります。



■ バッテリーは清潔に。

月1回、端子(ターミナル)の異物を取り除き、表面の汚れをぬぐってください。また、端子(ターミナル)には、グリースを塗布してください。

バッテリーの表面が汚れていると放電したり、金属部が腐食する恐れがあります。

 **警告**

- 乾いた布での清掃禁止。
バッテリーを乾いた布で清掃したり、はたきをかけたりすると静電気が発生し、静電気がバッテリーの爆発を誘発する恐れがあります。
- 清掃への洗剤、化学ぞうきん、有機溶剤の使用禁止
洗剤、化学雑巾、ベンジン、シンナー、ガソリンなどの有機溶剤をバッテリーの清掃に使用してはいけません。有機溶剤によって電槽が侵され、液漏れを起す恐れがあります。バッテリー液が漏れ、人や衣類に付着すると重大な事故につながる恐れがあります。また、希硫酸によって床、周囲の器物を傷める恐れがあります。
- 車載での水洗い禁止
車体にバッテリーを搭載したまま、バッテリーを水洗いしてはいけません。バッテリーを水洗いする時は、バッテリーを取り外しておこなってください。
車載したまま水洗いすると車体へ侵入した水がショートや故障を引き起こす恐れがあります。

■ バッテリーの接続

バッテリーの端子(ターミナル)へコードを接続する時は、プラスとマイナスを逆に接続しないよう、十分に注意して接続してください。コードを外す時は、プラス(赤いコード)を先に取り外してください。接続する時は、マイナス(黒いコード)を先に接続してください。

 **警告**

- 端子のプラス・マイナス逆接続注意
プラスとマイナスを逆に接続するとローリフトの電気回路が損傷するだけでなく、バッテリーが発熱し火災や爆発する恐れがあります。

■ バッテリー液が漏れた場合

バッテリー液が漏れ出した場合、ただちに中和剤(重曹、生石灰、炭酸ソーダなど)で中和し、大量の水で洗い流してください。手当をしないと床や器物を腐食します。また、人が触れると火傷を負います。

■ バッテリーの保管

バッテリーを保管する場合は、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、バッテリーが転倒したり落下する恐れがある場所や落下物に接触する恐れがある場所には保管してはいけません。

 **警告**

- 保管時の警告
換気の悪い場所、火気のある場所に保管すると、水素ガスが滞留し、爆発を起こす恐れがあります。また、転倒や落下などでバッテリーが破損すると希硫酸を含んだバッテリー液が漏れ、重大な事故を引き起こす恐れがあります。

3. 取り扱い

■ 使用済のバッテリー

使用済のバッテリーを廃棄する時は、バッテリー取扱店へご相談ください。そのまま保管する場合、使用済のバッテリーでもエネルギーが残っています。使用可能なバッテリーと同じように保管してください。

警告

■ バッテリーの分解禁止

バッテリー液の抜き取り、分解、修理をおこなってははいけません。バッテリー液は希硫酸を含んでいますので、皮膚や衣服に付着すると重度の火傷を負う恐れがあります。付着した時はただちに大量の水で洗い流してください。特に目に入った時は失明の恐れがありますので、大量の水で洗眼し医師の診断を受けてください。

■ 火中への投下禁止

バッテリーを火中へ投下したり、加熱すると、発煙、破裂の恐れがあります。発煙、破裂すると希硫酸を周囲にまきちらし、重大な事故につながる恐れがあります。

4. 点検・整備

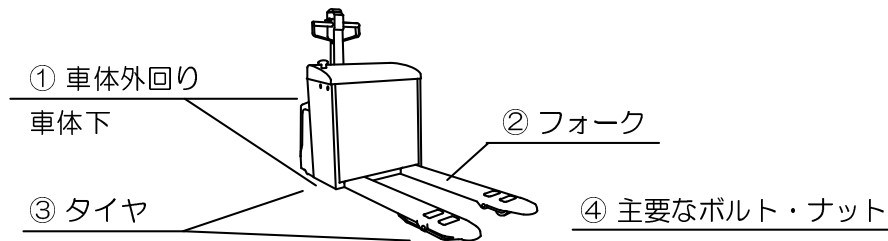
毎日 作業前に始業点検、月1回 月次点検整備、年1回 年次点検整備をおこなってください。また、点検記録は3年間保管してください。点検に特定の資格は必要ありませんが、年次点検には整備知識や整備工具が必要です。サービス会社へ依頼することをお勧めします。

■ 始業点検

毎日 作業を始める前に始業点検を必ずおこなってください。始業点検の内容は次の通りです。

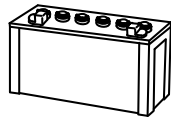
1. キースイッチをOFFでおこなう点検

(1) 車体外観



点検箇所	点検項目
① 車体外回り	車体にへこみ、ゆがみ、亀裂がないか点検します。 車体の下に油の跡がないことを確認します。
② フォーク	フォークにへこみ、ゆがみ、亀裂がないか点検します。
③ タイヤ	各タイヤに損傷・異常磨耗がないことを確認します。
④ 主なボルト・ナット	ゆるみがないことを確認します。

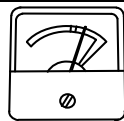
(2) バッテリー



バッテリー液量	バッテリー液の液量を点検します。 整備 ：不足している時は、精製水を補充します。
---------	--

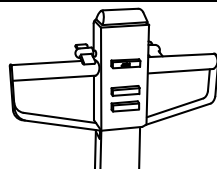
2. キースイッチをONでおこなう点検

(1) 充電量



点検箇所	点検項目
バッテリー放電計	フォークを上昇させながら充電量を点検します。 整備 ：充電量が不足している時は、充電します。

(2) フォーク操作装置

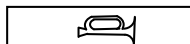


次の動きを確認します。	
① 上昇	フォーク上昇ボタンを押すとフォークが上昇する。 フォーク上昇ボタンから手を離すとフォークが停止する。
② 下降	フォーク下降ボタンを押すとフォークが下降する。 フォーク下降ボタンから手を離すとフォークが停止する。

4. 点検・整備

	点検箇所	点検項目
--	------	------

(3) 安全装置

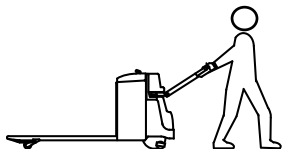


ホーン

ホーンボタンを押すと警笛の鳴ることを確認します。

3. 徐行しながらおこなう点検

(1) 走行・ブレーキ



次の動きを点検します。

① 前進・ブレーキ

走行ノブを手前に倒して前進する。

走行し、ハンドルを下げ停止を確認する。

再度 走行し、ハンドルを垂直にし停止を確認する。

② 後進・ブレーキ

走行ノブを前に倒して後進する。

走行し、ハンドルを下げ停止を確認する。

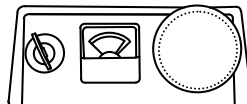
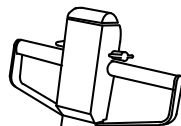
再度 走行し、ハンドルを垂直にし停止を確認する。

(2) ハンドル



遊び、ガタがないか点検します。

(3) 安全装置



① 挟まれ防止スイッチ

挟まれ防止スイッチを押し後進することを確認する。

② 非常停止ボタン

非常停止ボタンを押して全動作の停止を確認する。

(4) 異音

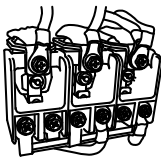

各部の操作時、異音がないか点検する。

● 点検は、水平な場所で荷物を積載せずに(無負荷)おこなってください。

■ 月次点検

毎月決められた日に月次点検整備を必ずおこなってください。点検の内容は次の通りです。

1. キースイッチをOFFでおこなう点検・整備

	点検箇所	点検項目
(1) 車体外観	① 車体外回り	車体にへこみ、ゆがみ、亀裂がないことを点検します。
		車体の下に油の跡がないことを点検します。
	② フォーク	フォークにガタツキや損傷がないことを確認します。
		整備 ：リフトリンクにグリスを注脂してください。
③ タイヤ・ホイール	各タイヤに損傷・異常磨耗、取り付けボルトのゆるみを点検します。	
	整備 ：ロードホイール軸受にマシンオイルを注油します。	
	整備 ：キャスターホイールへマシンオイルを注油します。	
④ 主なボルト・ナット	ゆるみがないことを確認します。	
	整備 ：主なボルト・ナットを増締めしてください。	
(2) 油圧装置	① 作動油タンク	油漏れのないことを確認します。
	② シリンダー、配管	シリンダー、配管から油漏れがないことを確認します。 損傷、取り付け状態を点検します。
(3) 電気回路		
	① 充電器のコード	外傷がないことを点検します。
	② 配線	外傷、ゆるみのないことを点検します。
	③ ヒューズ	規定のヒューズが取り付けられているか点検します。
		ゆるみがないか点検します。
	④ マグネットスイッチ	接点の溶着や、ショート跡がないか点検します。
⑤ モーター	カーボンブラシの磨耗、焼損がないか点検します。	
(4) バッテリー		
① バッテリー液量	バッテリー液の液量を点検します。	
	整備 ：不足している時は、精製水を補充します。	
② 端子	ゆるみがないか点検します。	
	整備 ：端子にグリスを塗布します。	
③ バッテリー外側	整備 ：清掃します。	

4. 点検・整備

2. キースイッチをONでおこなう点検

(1) 充電量	点検箇所	点検項目
	バッテリー放電計	フォークを上昇させながら充電量を点検します。 整備 ：充電量が不足している時は、充電します。
(2) フォーク装置	次の動きを点検します。	
	① 上昇	フォーク上昇ボタンを押すとフォークが上昇する。 フォーク上昇ボタンから手を離すとフォークが停止する。
	② 下降	フォーク下降ボタンを押すとフォークが下降する。 フォーク下降ボタンから手を離すとフォークが停止する。
(3) 安全装置	① ホーン	ホーンボタンを押して警笛の鳴るか点検します。

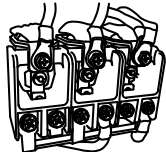
3. 徐行しながらおこなう点検

(1) 走行・ブレーキ	次の動きを確認します。	
	① 前進・ブレーキ	走行ノブを手前に倒して前進する。 走行し、ハンドルを下げ停止を確認する。 再度 走行し、ハンドルを垂直にし停止を確認する。
	② 後進・ブレーキ	走行ノブを前に倒して後進する。 走行し、ハンドルを下げ停止を確認する。 再度 走行し、ハンドルを垂直にし停止を確認する。
(2) ハンドル		遊び、ガタがないことを確認します。 整備 ：付根の回転部分にマシンオイルを注油します。
(3) 安全装置	① 挟まれ防止スイッチ	挟まれ防止スイッチを押し後進することを確認します。
	② 非常停止ボタン	非常停止ボタンを押して全動作の停止を確認します。
(4) 異音・異臭		各部の操作時、異音がないか点検します。 走行・フォーク操作時に異臭がないか点検します。

● 点検は、水平な場所で荷物を積載せずに(無負荷)おこなってください。

■ 年次点検

毎年 決められた月に年次点検整備を必ずおこなってください。点検の内容は次の通りです。年次点検をおこなう資格は定められていませんが、整備知識、整備工具が必要です。サービス会社へ依頼することをお勧めします。

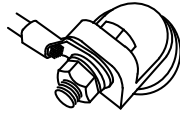
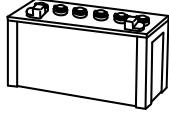
1. キースイッチをOFFでおこなう点検・整備			
点検箇所	点検項目		
(1) 車体外観	① 車体外回り	車体にへこみ、ゆがみ、亀裂がないことを点検します。 車体の下に油の跡がないことを点検します。	
	② フォーク	フォークにガタツキや損傷がないか点検します。 整備 ：リフトリンクにグリスを注脂します。	
	③ タイヤ・ホイール	各タイヤに損傷・異常磨耗、取り付けボルトのゆるみを点検します。 整備 ：ロードホイール軸受にマシンオイルを注油します。 整備 ：キャストホイールへマシンオイルを注油します 整備 ：ホイールベルクランクへグリスを注脂します。	
		④ 主なボルト・ナット	ゆるみがないことを確認します。 整備 ：主なボルト・ナットを増締めしてください。
(2) 油圧装置		① 作動油タンク	油漏れのないか点検します。 整備 ：作動油を交換してください。 交換に必要な作動油 ISO VG-32 1.21ℓ
	② シリンダー、配管	シリンダー、配管から油漏れがないか点検します。 損傷がないか、取り付けの状態を点検します。	
(3) 電気回路		警告 点検は、非常停止ボタンを押すか、バッテリーの端子を外してからおこなってください。感電の恐れがあります。	
		① 充電器	コード、プラグに外傷がないことを点検します。
		② 配線	外傷、ゆるみのないことを点検します。
		③ ヒューズ	規定のヒューズが取り付けられているか点検します。
			ゆるみがないことを確認します。
		④ マグネットスイッチ	接点の溶着や、ショート跡がないか点検します。
		⑤ モーター	カーボンブラシの磨耗（磨耗限度10mm）と焼損がないか点検します。
⑥ 荷役用コンタクター	コンタクターポイント可動部が上下にスムーズに動くか点検します。		
(4) 動力伝達装置	ドライブミッション	整備 ：グリスを交換します。 交換に必要なグリス CLS#0 160cc	
(5) ブレーキ	*ブレーキの調整は特定自主検査資格を持った方がおこなってください。	ブレーキのディスクにオイル、ごみ等が付着していないか点検します。	
		ブレーキのすき間が0.6mm以内であることを点検します。	

4. 点検・整備

1. キースイッチをOFFでおこなう点検・整備

	点検箇所	点検項目
(6) ハンドル	① 車体外回り	遊び、ガタがないか点検します。
		整備 ：ハンドル軸受（シリンダーヘッド）にグリースを注脂します。

(7) バッテリー



① バッテリー液量	バッテリー液の液量を点検します。
	整備 ：不足している時は、精製水を補充します。
② 端子	ゆるみがないか点検します。
	整備 ：端子にグリースを塗布します。
③ バッテリー外側	整備 ：清掃します。

2. キースイッチをONでおこなう点検

	点検箇所	点検項目
(1) 充電量	バッテリー放電計	フォークを上昇させながら充電量を点検します。
		整備 ：充電量が不足している時は、充電します。
(2) フォーク装置	次の動きを点検します。	
	① 上昇	フォーク上昇ボタンを押すとフォークが上昇する。
		フォーク上昇ボタンから手を離すとフォークが停止する。
	② 下降	フォーク下降ボタンを押すとフォークが下降する。
フォーク下降ボタンから手を離すとフォークが停止する。		
(3) 安全装置	① ホーン	ホーンボタンを押して警笛の鳴るか点検します。

3. 徐行しながらおこなう点検

(1) 走行・ブレーキ	次の動きを確認します。	
	① 前進・ブレーキ	走行ノブを手前に倒して前進する。
		走行し、ハンドルを下げ停止を確認する。
		再度 走行し、ハンドルを垂直にし停止を確認する。
② 後進・ブレーキ	走行ノブを前に倒して後進する。	
	走行し、ハンドルを下げ停止を確認する。	
	再度 走行し、ハンドルを垂直にし停止を確認する。	
(2) ハンドル	遊び、ガタがないか点検します。	
	整備 ：付根の回転部分にマシンオイルを注油します。	
(3) 安全装置	① 挟まれ防止スイッチ	挟まれ防止スイッチを押し後進することを確認します。
	② 非常停止ボタン	非常停止ボタンを押して全動作の停止を確認します。
(4) 異音・異臭	各部の操作時、異音がないか点検します。	
	走行・フォーク操作時に異臭がないか点検します。	

● 点検は、水平な場所で荷物を積載せずに(無負荷)おこなってください。

5. 故障診断

ローリフトが故障した場合、下の表に従った処置をしてください。

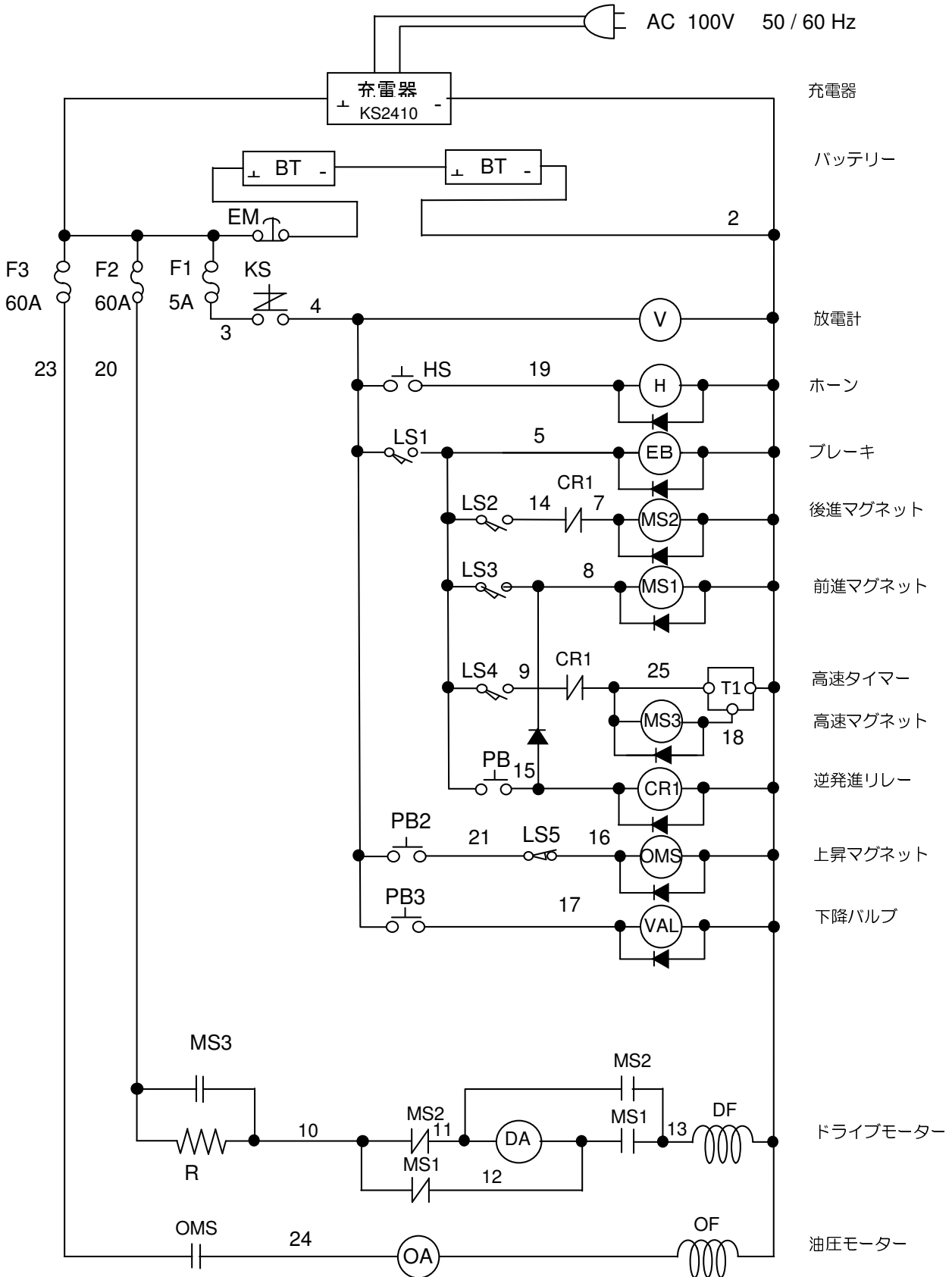
不具合	原因	処置の方法
フォークが動かない	<ul style="list-style-type: none"> ① キースイッチがOFF ② 非常停止ボタンが押されている ③ 充電不足 ④ 積載荷重オーバー ⑤ ヒューズの溶断 ⑤ 電気回路の故障 ⑥ 油圧回路の故障 	<ul style="list-style-type: none"> ① キースイッチをONにしてください。 ② 非常停止ボタンを戻してください。 ③ 充電してください。 ④ 積載している荷を許容荷重まで減らしてください。 ⑤ ヒューズを交換してください。 (交換は原因を取り除いてから) ⑤ サービス会社へ連絡してください。 ⑥ サービス会社へ連絡してください。
フォークの動きがにぶい	<ul style="list-style-type: none"> ① 充電不足 ② 積載荷重オーバー ③ 電気回路の故障 ④ 油圧回路の故障 	<ul style="list-style-type: none"> ① 充電してください。 ② 積載している荷を許容荷重まで減らしてください。 ③ サービス会社へ連絡してください。 ④ サービス会社へ連絡してください。
フォークが自然に下降する	<ul style="list-style-type: none"> ① 油圧回路の油漏れ ② 油圧回路の故障 	<ul style="list-style-type: none"> ① サービス会社へ連絡してください。 ② サービス会社へ連絡してください。
走行できない	<ul style="list-style-type: none"> ① キースイッチがOFF ② 充電不足 ③ 非常停止ボタンが押されている ④ ヒューズの溶断 ⑤ 電気回路の故障 ⑥ 駆動装置の故障 	<ul style="list-style-type: none"> ① キースイッチをONにしてください。 ② 充電してください。 ③ 非常停止ボタンを戻してください。 ④ ヒューズを交換してください。 (交換は原因を取り除いてから) ⑤ サービス会社へ連絡してください。 ⑥ サービス会社へ連絡してください。
搬送走行が重い、にぶい	<ul style="list-style-type: none"> ① 車輪にゴミが絡まっている。 ② 充電不足 ③ 積載荷重オーバー 	<ul style="list-style-type: none"> ① ゴミを取り除いてください。 ② 充電してください。 ③ 積載している荷を許容荷重まで減らしてください。
ハンドルをブレーキ位置へ動かしても止まらない	<ul style="list-style-type: none"> ① 電気回路の故障 ② ブレーキライニングの摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ① サービス会社へ連絡してください。 ② サービス会社へ連絡してください。

5. 故障診断

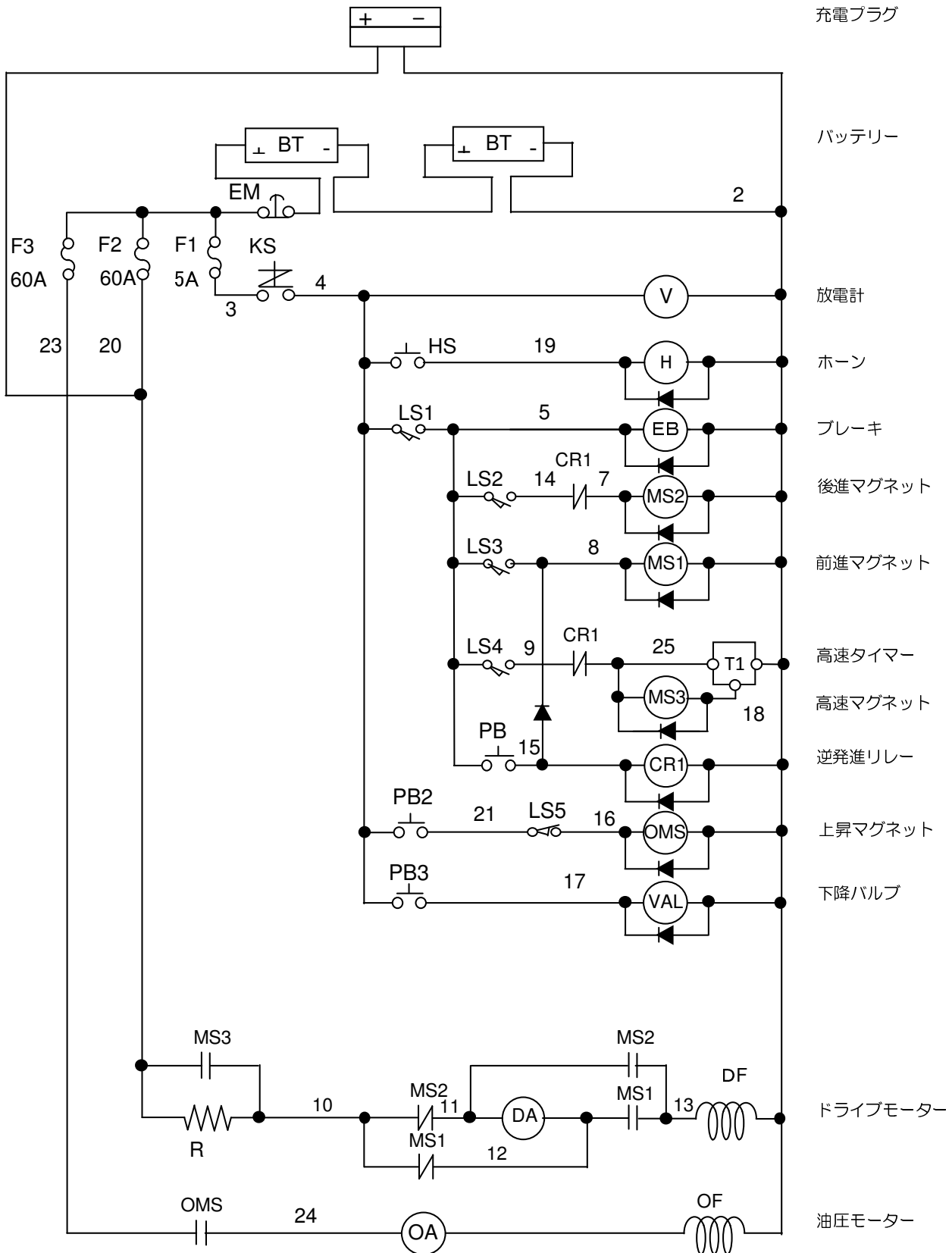
不具合	原因	処置の方法
充電できない	① 電源が入っていない。 ② コードがつながっていない。 ③ コードの断線 ④ ヒューズの溶断 ⑤ 充電器の故障。 ⑥ バッテリー不具合。	① 電源を入れてください。 ② コードを接続してください。 ③ サービス会社へ連絡してください。 ④ ヒューズを交換してください。 (交換は原因を取り除いてから) ⑤ サービス会社へ連絡してください。 ⑥ サービス会社へ連絡してください。

6. 電気回路図

■ JHP 15



■ JHP17 JHP20



MEMO

JHP 取扱説明書

発行 平成23年2月

適用号機 998J50911 ~

コレック株式会社 大阪市北区天満橋 3丁目 3番 5号

Tel 06 (6351)3280 Fax 06 (6351) 8365

図書番号 OPM - 06 - 0M